

海外安全対策情報（ウクライナ）

1 社会・治安情勢

- (1) ウクライナでは、昨年3月にロシアがクリミア自治共和国およびセヴァストポリスを一方的に自国に「編入」したほか、東部のドネツク州、ルハンスク州等において「人民共和国」が設立されるなど、武装勢力が活動を激化させ、これに対しウクライナ政府が「反テロ作戦」を開始し武力をとまなう領土の回復に乗り出した。
- (2) 昨年12月以降、ウクライナ政府と武装勢力間では、停戦が再び合意されたものの、ウクライナ東部の一部では未だ緊迫した状態が継続しており、引き続き事態の推移を注視する必要がある。
- (3) 他方、ウクライナ東部の一部、クリミア自治共和国及びセヴァストポリスを除いては、首都キエフ市を含め総じて平穏かつ治安が安定しており、社会情勢や治安情勢に大きな影響を与えるような事態になっていない。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

ウクライナ検事総局は公式ホームページにおいて本年1～6月の犯罪統計を次のとおり公表している。

犯罪総認知件数	:	301,450件
故意殺人	:	5,133件
故意傷害	:	22,584件
（うち故意傷害致死）	:	318件
暴行・虐待	:	731件
強姦	:	141件
窃盗	:	141,627件
（うち侵入盗）	:	22,116件
ひったくり	:	9,442件
強盗	:	1,698件
恐喝	:	348件
詐欺	:	24,889件
故意器物損壊	:	1,717件
暴力行為	:	2,233件
薬物・健康関連犯罪	:	14,470件

※ 犯罪総認知件数は昨年同期305,656件であり、各種刑法犯においても微減もしくは横ばい状態。

(3) 邦人被害事案

混雑した地下鉄車内，ホテル，食堂など，不特定多数の利用者が多い公共施設でのスリ・置引き被害のほか，路上に落ちている財布（ビニール袋に多額紙幣等）を拾いトラブルとなる所謂「財布落とし」事件の情報が複数寄せられており，注意を要する。

(4) 最近の特徴的傾向（爆破予告事件の増加）

当地報道は，依然として地下鉄駅構内や学校，ショッピングモールなどに対する爆破予告電話が頻発している旨と報じている。

3 テロ・爆弾事件発生状況

6月30日深夜，ハルキウ州の大学学生寮内で窓ガラスが割れる爆発事件が発生したものの，邦人等への負傷者の発生はなく，地元警察が背景などを継続捜査している。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人及び邦人以外の外国人が被害者となる事件の把握なし。

以上